

## 「遺伝性腫瘍」 投稿規程

1. 「遺伝性腫瘍 (Journal of Hereditary Tumors)」は日本遺伝性腫瘍学会の機関誌として発行する。
2. 著者（共同著者を含める）のうち1名は本学会会員であること。
3. 論文の採否は編集委員会で決定する。委員会は必要に応じ、投稿者に修正を求めることができる。
4. 論文は他誌に発表されていないものに限る。また、本誌に掲載された論文の著作権は本学会に帰属する。投稿原稿のスタイルは医学雑誌編集者国際委員会(ICMJE)の Recommendations for the Conduct, Reporting, Editing, and Publication of Scholarly Work in Medical Journalsの最新版に準拠する。また、Committee on Publication Ethics (COPE: 出版倫理委員会)(<http://publicationethics.org/>)が提供する国際標準を遵守して作成されたものに限る。
5. 論文の種類は以下のとおりである。  
総説；特定の分野やテーマについて、関連文献、資料に基づいて総括的に論評した論文  
解説；特定の分野やテーマについて、教育や啓発を目的として解説した論文  
原著；研究、開発、調査などで独創性、新規性のある論文  
臨床経験；原著や症例報告に該当しないが、経験に基づいた臨床的に意義のある論文  
症例報告；臨床的に情報共有すべき価値のある経験症例に関する詳細な報告  
バリエントレポート；遺伝性腫瘍の原因遺伝子におけるバリエントの報告  
その他 研究報告など家族性腫瘍または遺伝性腫瘍に関わるもの。バリエントレポートについては、別に投稿規程を定める。
6. 校正  
著者校正は原則として初校で行う。校正は誤植の訂正にとどめ、文章の大幅な加筆、削除、図表の取り替えは原則として認めない。
7. 掲載済み論文の訂正・撤回  
掲載済みの論文の訂正・撤回（著者の変更を含む）を希望する場合は、COPEから公表されている手順に従い対応し、論文投稿時の代表著者が著者全員の同意書並びに訂正理由書を編集委員長に提出する。訂正あるいは撤回の最終判断は編集委員長が決定する。論文が訂正・撤回された場合、直近で刊行される学会誌上に書誌事項と理由書を掲載し、訂正・撤回された旨を明記した上で論文の公開は継続される。また、撤回した論文については、必要な修正を行った後に新規論文として投稿することができる。

8. 科学における不正行為  
掲載済論文に不正行為（実験データの改ざん，ねつ造，剽窃，二重投稿等）が見いだされた場合は，COPEから公表されている手順に従い対応し，編集委員長の判断でこれを撤回することができる。この場合，直近で刊行される学会誌上に書誌事項と理由書を掲載し，撤回された旨を明記した上で論文の公開は継続される。
9. 投稿手順  
投稿はオンライン投稿査読システムであるScholarOne Manuscriptsを用いて行う。オンライン投稿の手順は別に定める。
10. 投稿原稿は，オンライン投稿可能なファイルで作成する。本文（WordまたはPDFファイル），図・写真（JPGファイル），表（Excelファイル），利益相反申告用紙（PDFファイル），誓約書（PDFファイル）をアップロードする。
11. 掲載料はかからない。カラーの図表も著者負担はない。
12. 他書より引用する場合は，図，表の説明の後に出典を明示し，文献欄に掲げる。なお，他書よりの転載については，著者の責任で原著者，発行者の許諾を得ること。
13. 論文内容に関して以下の点に十分留意する。
  - ・ 当該研究が「ヘルシンキ宣言」，「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」，「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」などの研究倫理を遵守し，所属施設の倫理委員会で承認を得た研究（承認番号が必要）であること，患者から文書による同意を得たことを「方法」のセクション内に明記する。
  - ・ 論文内容から個人が特定されることがないように個人情報の保護に配慮する。特に顔写真や家系図，ゲノムデータに関して「改正個人情報保護法」を順守する。
14. 利益相関に関する自己申告書は遺伝性腫瘍学会が定めたフォーマットに必要な事項を記入し，署名の上スキャンして提出する。
15. 査読や編集委員会の判定により修正を求められた論文においては，査読結果通知書の日付から6週間以内に修正稿を再提出することを原則とする。審査意見に対しての回答を箇条書きで記載し，修正稿の修正部分を赤字にするなどして明確にする。

#### 執筆要領

1. 表紙の構成  
表紙には① 論文の種類，② 論文標題，③ 著者名，④所属，⑤ 連絡先を，また次のページに⑥ 要約（400字程度またはそれ以下），⑦ Key words（3～6語）を書くこと。また①～⑦と同じ内容を英文で記述する（英文論文はこの限りではない）。要約はSummaryとして，250語以内で書くこと。
2. 本文  
本文は総説，原著の場合は10000字以内（図表・文献も含む，図表は各々1点を400字

に換算する), 症例報告などは7500字以内(図表・文献も含む, 同上)を基準とする。ワープロソフトにて作成し, A4判サイズ, 横書き, 12ポイントの通常フォント(MS明朝など)を使用, ダブルスペースで左余白に行番号(ページごと振り直し)を付ける。

### 3. 単位記号

SI単位を使用する。遺伝子名の表記については, HUGO Gene Nomenclature Committee (HGNC : <http://www.genenames.org/>) のガイドラインに準じて記載すること。但し, 文献リスト中のタイトルにおける遺伝子名の表記は, 原著の表記に従うものとする。また, 遺伝子のバリエント (variant) の記載に関してはHuman Genome Variation Society のガイドライン (<http://www.hgvs.org/rec.html>) を参照のこと。Transcript variantsが問題になる場合には転写産物のAccession番号を記載すること。

例) HUGO Gene Nomenclature Committee(HGNC)の表記法

遺伝子 (イタリック) タンパク質 (スタンダード)

ヒト *MLH1* MLH1

マウス *Mlh1* Mlh1

大腸菌 *mlh1* mlh1

### 4. 文献

本文中における文献の引用は上付きの通し番号1), 2, 3), 4-6)などを付け, 論文の末尾に, 引用順に一括列記する。

[引用文献の書き方]

#### ① 雑誌に掲載された論文を引用する場合

文献番号, 著者名(著者の数が3人を越える場合は3人の名前を書き, その後にet al.をつける): 論文名. 誌名(略称) 発行年(西暦); 巻数: 引用ページ(最初と最後)。

#### ② 単行本を引用する場合

文献番号, 著者名(著者の数が3人を越える場合は3人の名前を書き, その後にet al.をつける): 書名(省略しない). 発行都市名: 発行所, 発行年(西暦): 巻数(あれば), 引用ページ(最初と最後)。

[表示例]

#### ① 雑誌

1) Bai Y-Q, Akiyama Y, Nagasaki H, et al. : Predominant germline mutation of the hMSH2 gene in Japanese hereditary nonpolyposis colorectal cancer kindreds. Int J Cancer 1999 ; 82 : 512-515.

2) 丸山道生, 菅野範英, 江淵正和, 他 : 肝転移に対する5-FU の腹腔内投与と静脈内投与の基礎的比較. 癌と化学療法 1999 ; 26 : 497-502.

② 単行本

- 3) Yuasa Y, Akiyama Y: Molecular biology of hereditary nonpolyposis colorectal cancer. In: Utsunomiya J, Mulvihill JJ, Weber W (eds.): Familial Cancer and Prevention—New Strategy Toward Cancer Control—. New York : Wiley-Liss Inc., 1999 : 237–244.
- 4) 湯浅保仁 : がん遺伝学. 有吉寛, 他 (編) : 臨床腫瘍学. 東京 : 癌と化学療法社, 1999 : 233–242.

5. 挿図, 写真, 表

- ① 図 (写真を含む) は「Fig.1」, 表は「Table 1」とアラビア数字で番号をつける。また, 表題, 説明および図表中の語句は原則英語表記とするが, 内容に応じて日本語表記も許容する。
- ② 図の表題および説明は順番にまとめて本文の後に記載する。
- ③ 図は原稿から直接製版するので, 描線の太さ, 文字の大きさなどは特に注意する。
- ④ 図中の文字は大きさの違う文字や書体の違う文字を多種類使用すると, きれいな仕上がりにならないので, 注意すること。
- ⑤ 写真はカラー掲載も可能である。
- ⑥ 写真や小さな図は上下左右がわかるようにする。

2021年4月1日 制定